

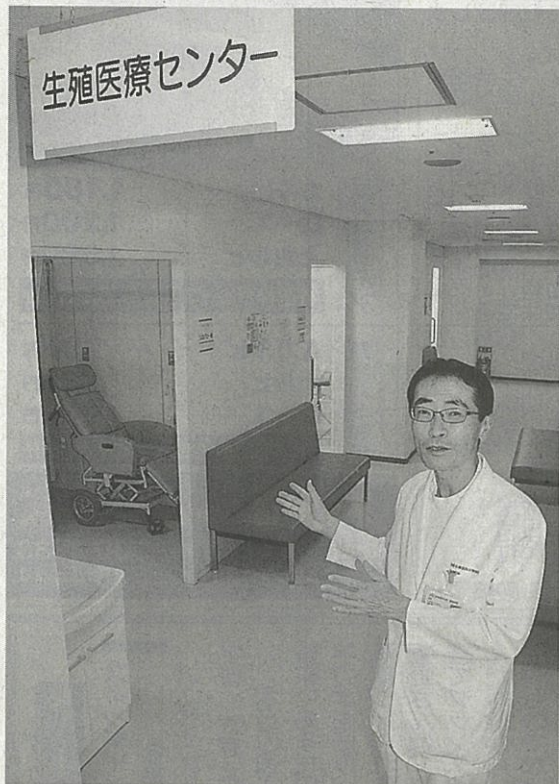
不妊治療の心理的負担に配慮

兵庫医大病院（西宮市）は12月、産科婦人科内で診療していた生殖医療センターを独立させ、不妊に悩んで受診する夫婦の心理的な負担などに配慮した新センターをオープンさせた。専用の診察室や、手術後に体を休める「リカバリー（回復）室」などの設備を充実させた。（山路 進）

同センターは2013年4月に発足。産婦人科医▽男性対象の泌尿器科医▽不妊症認定看護師▽不妊カウンセラー▽生殖医療コーディネーター▽精子や卵子、受精卵を扱う胚培養士が連携して治療に当たる。

これまでは産科婦人科の外来スペースで診療してきたため、不妊治療を受ける夫婦は、健診に訪れた妊婦らと同じ待合室を利用せざるを得ず、心理的な負担につながる可能性があった。同病院は13年春、7階建ての急性医療総合センターを新設。延べ床面積が拡大したため順次、診療機能を充実させていく。今年5日にオープンした新たな生殖医療センターは約150平方メートル。診

妊婦と別の待合室／術後に休める回復室



生殖医療センターの利点を語る柴原浩章センター長＝西宮市武庫川町、兵庫医大病院

メンズルームを2カ所設けた。さらに、体外受精のために採卵したり、受精卵から培養した胚を子宮に移植したりした後に、女性が休めるベッドなどがあるリカバリー室も整備した。診察室の増加に合わせ、同センターの外来担当医を常時1人から2人に増員。1時間近くになることもあった患者の待ち時間も短縮でき、ほぼ

予約時間通りに診療できているという。同センターの出町友子看護師(42)は「不妊治療を続ける夫婦から『妊婦さんと一緒なのは仕方ない』とあきらめていたが、気遣ってもらえた」と喜ばれている。落ち着いて診察を受けられる時間の余裕もできた」と話す。柴原浩章センター長(57)は「年々不妊治療を希望する夫婦は増えている。余計なストレスを感じることもなく、最先端の技術を含む生殖医療を提供していきたい」と強調した。同センターでは毎月第1土曜日の午前10時半から、不妊治療を希望する夫婦を対象にセミナーを開いている。不妊症の原因や検査・治療法などを医師が解説する。受講無料。定員20組(40人)。所要約1時間。同センター ☎0798・45・6570

一般不妊治療

- ◆タイミング指導
排卵期に合わせて夫婦生活を持つ
- ◆人工授精
排卵期にカテーテル(医療用の管)などで子宮内に濃縮した精液を注入する

高度生殖医療

- ◆体外受精+胚移植
麻酔した上で卵巣から卵子を採取し(採卵)、精子も採取。授精後2~5日間培養し、胚を子宮へ移植する
- ◆顕微授精
採卵した卵子に一つの精子をガラス管で注入。培養後、胚を子宮へ移植する
- ◆凍結融解胚移植
体外受精や顕微授精で培養した胚を凍結保存。妊娠希望時に子宮へ移植する

不妊症の主な治療法

不妊症の治療 不妊症は、夫婦生活を送りながら2年以上妊娠しない状態を指す。基礎体温の変化や妊娠、流産の経緯、夫婦の既往症などを問診で確認。内診やホルモン検査、超音波検査、性感症検査、精液検査などで原因を調べる。検査結果や年齢などに応じ、タイミング指導や人工授精などを行う。ほかに高度生殖医療の体外受精や顕微授精などがある。

からだ